Ⅱ　化粧にかける投資額と化粧に感じる満足度が化粧を重要視する理由に及ぼす影響

樋木　一矢

１　目的

きれいな女性について持つイメージや目指しているきれいな女性像の過多と、化粧をすることを重要視する理由との間に何らかの関係性があるか否かを調べた。また同様に、化粧をすることに満足をおぼえているか、また化粧にどれだけの金額を投資しているかと、化粧をすることを重要視する理由との関係を調べた。これは陳（2004）の研究から得られた知見を基にしている。陳は、大学生を対象にした理想自己（「こうありたい」自分像）と義務自己（「こうあるべき」自己象）と優越感・有能感そして自己嫌悪感との関連について調査した結果、「こうあるべき」自己を意識することによって、自己評価を高く維持する女子学生が存在する可能性を示唆している。またそれと同時に、自分があるべき姿と現実の自分との間の不一致が自己に対する否定的評価と関係していることを述べている。このことから、化粧行動はこのあるべき姿と現在の自己との距離を狭め、自己への否定的評価を軽減させ、自分自身に対して自信を持つために行われている可能性が考えられる。またそれにより、自信を持つことができた場合、その経験がフィードバックされより化粧を行うようになるのではないかと考えられる。本分析では理想自己については自分が理想とする女性像（「イメージ」得点）、義務自己については日常生活において目指している女性像（「現実目標」得点）と捉えた。また化粧行動から生じるフィードバックについては化粧品などについやす投資額と化粧をすることに感じる満足感をあて、分析を試みた。仮説は以下の通りである。また仮説で用いられている各得点については後述する。

仮説１：「イメージ」高得点者群は、低得点者群よりも化粧をする理由を選択する。
仮説２：「現実目標」高得点群は、低得点群よりも化粧をする理由を選択する。
仮説３：「満足」高得点群は、低得点群よりも化粧をする理由を選択する。
仮説４：「投資額」高得点群は、低得点群よりも化粧をする理由を選択する。

仮説１及び仮説２について、きれいな女性について持つイメージや目指している女性像が多ければ、それぞれのイメージや女性像について化粧を行う理由が異なり、結果、きれいな女性イメージや女性像が多い人は少ない人よりも化粧を行う理由が多くなるのではないかと考えられる。

仮説３について、化粧をすることに満足する機会が多ければ、さまざまな理由を満足させるためではないかと考えられる。

仮説４について、化粧への投資額が多いほど様々な化粧品を試すことができると考えられ、そのためには化粧を行うための理由も多岐にわたると考えられる。

2　分析

本章では、「きれいな女性」のイメージ、日常生活で目指している「きれいな女性」のイメージ、きれいな女性でいることへの満足度、1 ヶ月の美容投資金額の 4 項目について、各回答より分析に用いる 4 変数を作成。作成した 4 変数と、「きれいな女性」でいることの重要度の理由を問う設問に対してその他、理由なし、無回答を除く 11 の回答(回答選択肢は以下を参照)に対してクロス集計を行い χ^2 検定を行った。作成した変数は以下の通りである。

「きれいな女性でいることの重要度の理由」回答選択肢

楽しいから、気持ちに余裕が持てるから、生活に充実感がもてるから、自分に自信がもてるから、前向きになれるから、積極的に行動できるから、安心できるから、周りの人と協調できるから、周りの人より優位な気持ちになれるから、ストレスがたまらないから、個性を表現できるから。

1）「イメージ」得点

この項目は日常生活でイメージするきれいな女性像について得点化した項目である。

日常生活でイメージするきれいな女性のイメージとして、無回答、その他を除く 26 の回答選択肢の中で選択された項目数を合計した(回答選択肢は以下を参照)。その後、累計度数に従い、1~12 点までを低得点群(N=1184)、13~26 点までを高得点群(N=1316)に分けた。

「日常生活でイメージするきれいな女性のイメージ」回答選択肢

顔のつくり（目鼻立ち）がきれい、個性的な魅力のある顔立ち、きめが細かい肌、潤いのある肌、ハリのある肌、色白の肌、センスのよいメークをしている、個性を活かしたメークをしている、流行を取り入れたメークをしている、スタイル（体型）のバランスがよい、スリムなボディ、グラマラスなボディ、姿勢がよい、センスのよいファッションをしている、個性を活かしたファッションをしている、流行を取り入れたファッションをしている、清潔感がある、健康そうである、しぐさや立ち振る舞いがきれい、きちんとしたマナーをもっている、言葉遣いがよい、表情が豊か、大人っぽい雰囲気、若々しい雰囲気、品がある、パワフルである。

2）「現実目標」得点

この項目は日常生活で目指しているきれいな女性像について得点化した項目である。

日常生活で目指しているきれいな女性として無回答、その他を除く 26 の回答選択肢の中で選択された項目数を合計した(回答選択肢は以下を参照)。その後、累計度数に従い、1~8 点までを低得点群(N=1240)、9~26 点までを高得点群(N=1235)に分けた。

「日常生活で目指しているきれいな女性」回答選択肢

顔のつくり（目鼻立ち）がきれい、個性的な魅力のある顔立ち、きめが細かい肌、潤いのある肌、ハリのある肌、色白の肌、センスのよいメークをしている、個性を活かしたメークをしている、流行を取り入れたメークをしている、スタイル（体型）のバランスがよい、

スリムなボディ、グラマラスなボディ、姿勢がよい、センスのよいファッションをしている、個性を活かしたファッションをしている、流行を取り入れたファッションをしている、清潔感がある、健康そうである、しぐさや立ち振る舞いがきれい、きちんとしたマナーをもっている、言葉遣いがよい、表情が豊か、大人っぽい雰囲気、若々しい雰囲気、品がある、パワフルである。

3）「満足」得点

この項目は化粧をすることで美しくなった自分に感じる満足感を得点化した項目である。きれいな女性でいることへの満足度について「とても満足している」と「やや満足している」を選択したケースを満足高得点群(N=610)、「あまり満足していない」と「全く満足していない」を選択したケースを満足低得点群(N=924)とした。また、「どちらともいえない」および無回答は分析から除外した。

4）「投資額」得点

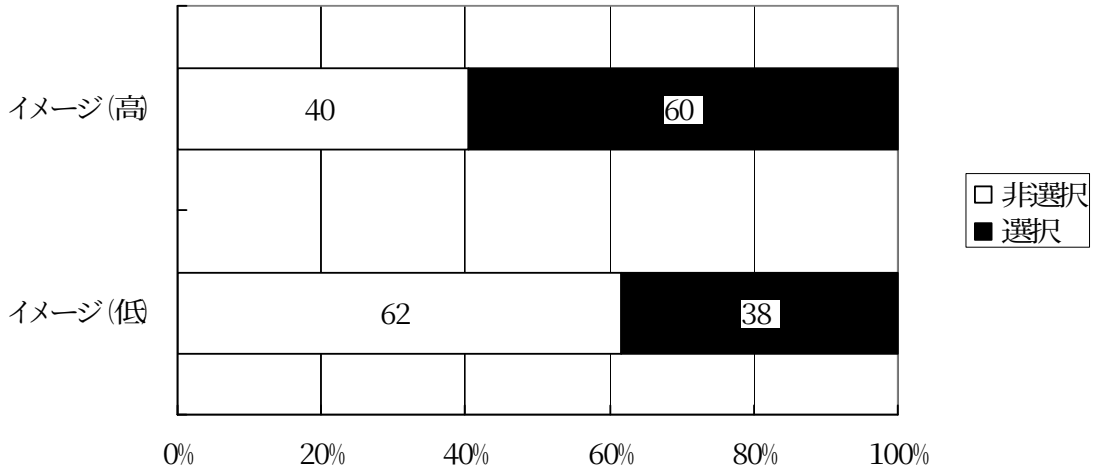
この項目は化粧品や美容施術に対してかけられた費用を得点化した項目である。
1 ヶ月の美容投資金額について「1,000 円未満」～「3,000~5,000 円未満」を選択したケースを投資額得点低群(N=1340)、「5,000 円~7,000 円未満」～「50,000 円未満」を選択したケースを投資額高得点群(N=1079)とした。また「わからない」と無回答は欠損値とした。

3　結果

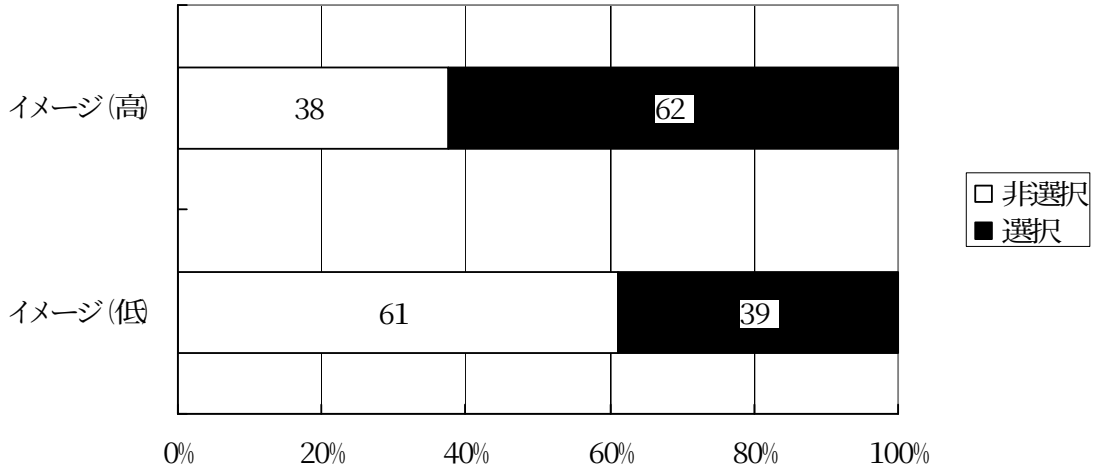
1）「イメージ」との χ^2 検定結果

「楽しいから(χ^2 =168.69, df=1, p<.01)」「積極的に行動できるから(χ^2 =154.42, df=1, p<.01)」「周りの人と協調できるから(χ^2 =11.92, df=1, p<.01)」「安心できるから(χ^2 =27.17, df=1, p<.01)」「周りの人より優位な気持ちになれるから(χ^2 =18.79, df=1, p<.01)」「ストレスがたまらないから((χ^2 =33.04, df=1, p<.01)p<.01)」「個性を表現できるから(χ^2 =67.42, df=1, p<.01)」という理由は高得点群、低得点群共に選ばれないことの方が多かった。対して「自分に自信がもてるから(χ^2 =143.61, df=1, p<.01)」「前向きになれるから(χ^2 =161.49, df=1, p<.01)」は高得点群、低得点群共に選択されることの方が多かった。
また「気持ちに余裕が持てるから(χ^2 =108.28, df=1, p<.01)」「生活に充実感がもてるから(χ^2 =130.80, df=1, p<.01)」は「理想のイメージ」低得点群では選ばれないことの方が多く、高得点群では選択されることの方が多かった。

このことから理想の美しい女性のイメージが多いか否かに関わらず、化粧行動は自分に自信を与え、生活に対して前向きに接していこうという気持ちを生まれさせるものであることがうかがえる。また美しい女性のイメージを多く持つ場合、「気持ちに余裕が持てる」や「生活に充実感が持てる」という理由を選択することが見られた。



グラフ１：「イメージ」得点と重要度「気持ちに余裕が持てる」選択比率

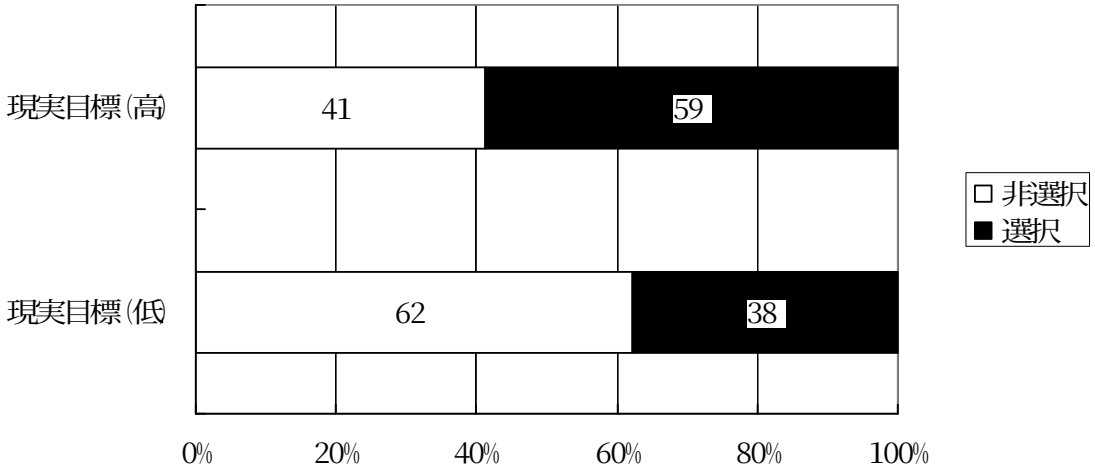


グラフ２：「イメージ」得点と重要度「生活に充実感が持てる」選択比率

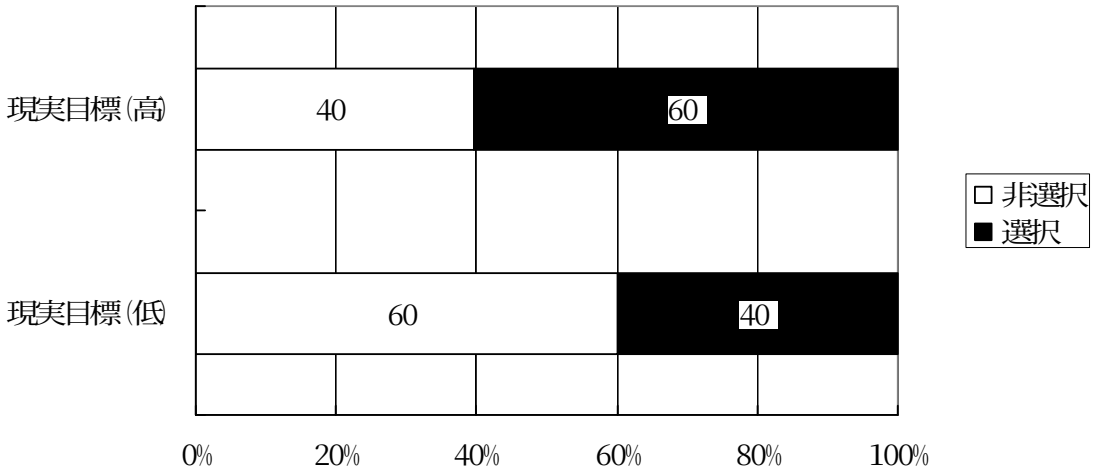
2）「現実目標」との χ^2 検定結果

「楽しいから(χ^2 =128.73, df=1, p<.01)」「積極的に行動できるから(χ^2 =97.92, df=1, p<.01)」「周りの人と協調できるから(χ^2 =16.89, df=1, p<.01)」「安心できるから(χ^2 =50.26, df=1, p<.01)」「周りの人より優位な気持ちになれるから(χ^2 =23.26, df=1, p<.01)」「ストレスがたまらないから(χ^2 =49.34, df=1, p<.01)」「個性を表現できるから(χ^2 =39.02, df=1, p<.01)」という理由は高得点群、低得点群共に選ばれないことの方が多かった。対して「自分に自信がもてるから(χ^2 =145.85, df=1, p<.01)」「前向きになれるから(χ^2 =116.78, df=1, p<.01)」は高得点群、低得点群共に選択されることの方が多かった。また「気持ちに余裕が持てるから(χ^2 =103.57, df=1, p<.01)」「生活に充実感がもてるから(χ^2 =99.96, df=1, p<.01)」は「日常のイメージ」低得点群では選ばれないことの方が多く、高得点群では選択されることが多かった。

このことから日常生活で目標としている女性のイメージが多いか否かに関わらず、化粧行動は、自分に自信を与え、生活に対して前向きに接していこうという気持ちをうまれさせるものであることがうかがえる。また日常生活で目標としている女性のイメージを多く持つ場合は、「気持ちに余裕が持てる」や「生活に充実感が持てる」という理由を選択することが見られた。



グラフ３：「現実目標」得点と重要度「気持ちに余裕が持てる」選択比率



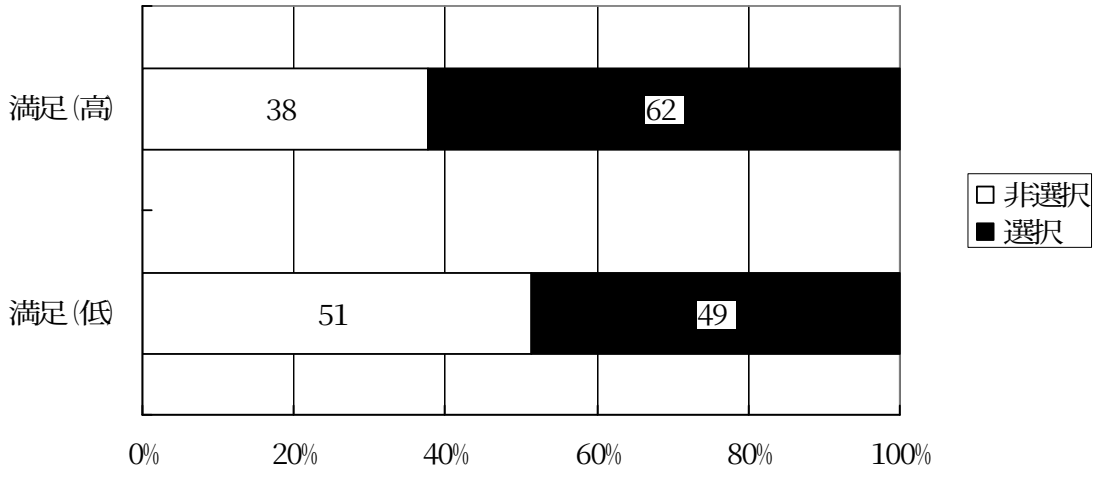
グラフ４：「現実目標」得点と重要度「生活に充実感が持てる」選択比率

３）「満足」との χ^2 検定結果

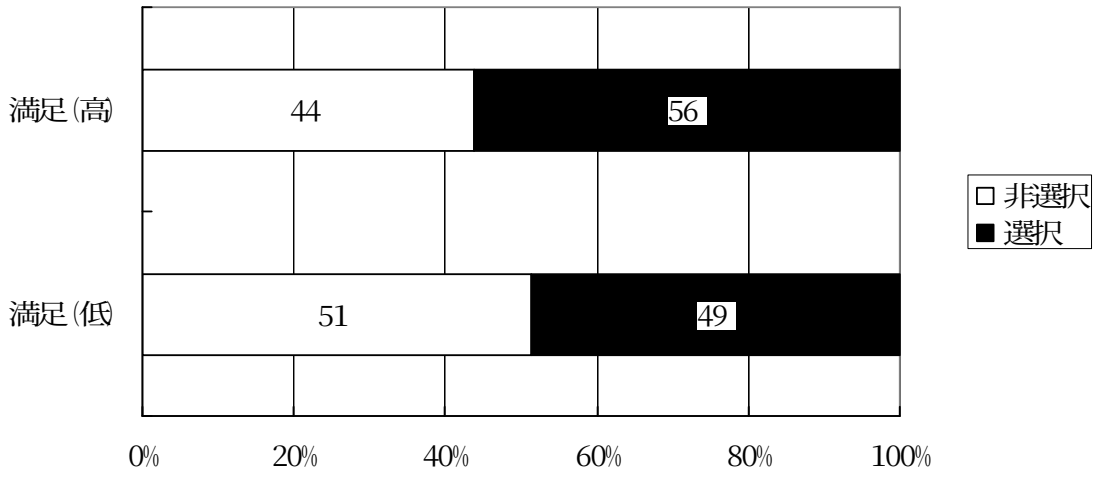
「楽しいから(χ^2 =47.60, df=1, p<.01)」「積極的に行動できるから(χ^2 =4.83, df=1, p<.05)」「周りの人と協調できるから(χ^2 =8.15, df=1, p<.01)」「周りの人より優位な気持ちになれるから(χ^2 =4.14, df=1, p<.05)」「個性を表現できるから(χ^2 =10.26, df=1, p<.01)」という理由は、高得点群、低得点群共に選ばれないことの方が多かった。対して「前向き

になれるから(χ^2 =9.86, df=1, p<.01)」「自分に自信がもてるから(χ^2 =8.36, df=1, p<.01)」は、高得点群、低得点群共に選択されることの方が多かった。また「気持ちに余裕が持てるから(χ^2 =8.20, df=1, p<.01)」「生活に充実感がもてるから(χ^2 =26.87, df=1, p<.01)」は満足低群では選択されることの方が少なく、満足高群では選択されることの方が多かった。

このことから自分の美しさに満足しているか否かによらず、化粧行動は自分に自信を与え、生活に対して前向きに接していこうという気持ちを生まれさせるものであることがうかがえる。また自分の美しさに満足している場合、化粧行動の理由として「気持ちに余裕が持てる」や「生活に充実感が持てる」という理由を選択することが見られた。



グラフ５：「満足」得点と重要度「気持ちに余裕が持てる」選択比率



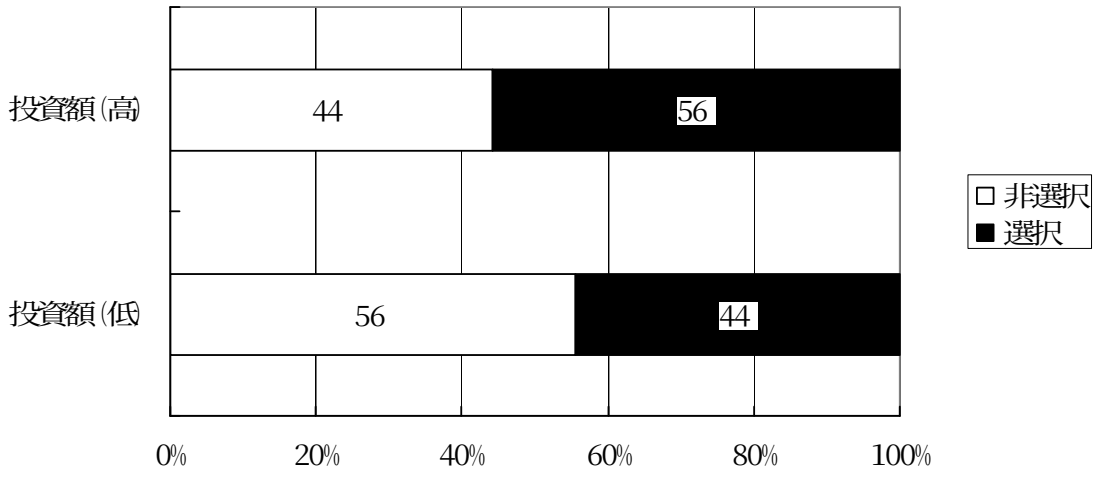
グラフ６：「満足」得点と重要度「生活に充実感が持てる」選択比率

４）「投資額」とのχ^2 検定結果

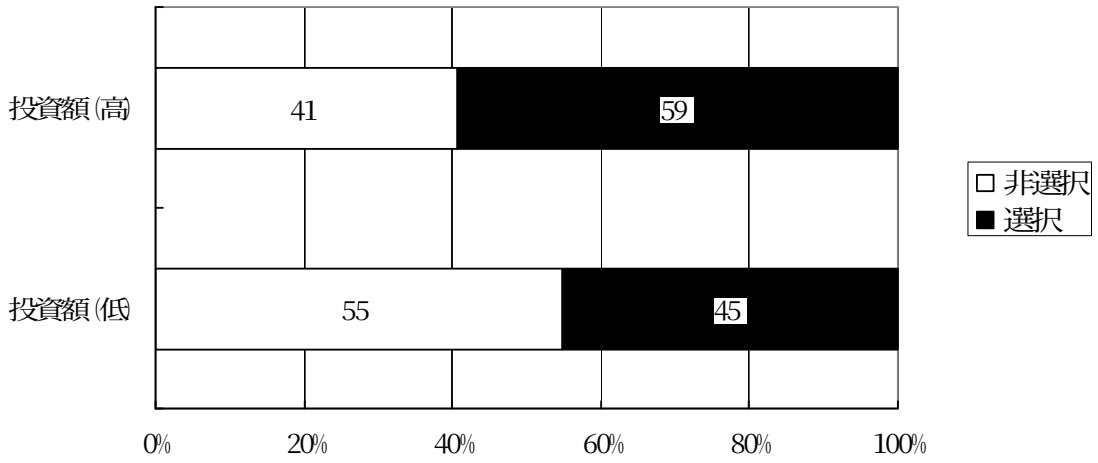
投資額の高低とは関係なく、「楽しいから(χ^2 =128.73, df=1, p<.01)」「積極的に行動できるから(χ^2 =97.92, df=1, p<.01)」「周りの人より優位な気持ちになれるから(χ^2 =5.294,

df=1, p<.05)」「個性を表現できるから(χ^2 =14.89, df=1, p<.01)」「安心できるから（χ^2 =9.71, df=1,p<.01）」という理由は高得点群、低得点群共に選ばれないことの方が多く、それに対して「自分に自信がもてるから(χ^2 =145.85, df=1, p<.01)」「前向きになれるから(χ^2 =116.78, df=1, p<.01)」は高得点群、低得点群共に選ばれることの方が多かった。また「気持ちに余裕が持てるから(χ^2 =103.57, df=1, p<.01)」「生活に充実感がもてるから(χ^2 =99.96, df=1, p<.01)」という理由では、投資額低群では選ばれない方が多く、投資額高群では選ばれる方が多かった。

このことから化粧に多くの金額を費やしたか否かに関わらず、化粧行動は自分に自信を与え、生活に対して前向きに接していこうという気持ちを生まれさせるものであることがうかがえる。また化粧に金額を費やしていた場合、「気持ちに余裕が持てる」や「生活に充実感が持てる」という理由を選択することが見られた。



グラフ７：「投資額」得点と重要度「気持ちに余裕が持てる」選択比率



グラフ８：「投資額」得点と重要度「生活に充実感が持てる」選択比率

４　考察

4.1　仮説の検証

仮説１：「イメージ」高得点者群は、低得点者群よりも化粧をする理由を選択する。
仮説２：「現実目標」高得点群は、低得点群よりも化粧をする理由を選択する。
仮説３：「満足」高得点群は、低得点群よりも化粧をする理由を選択する。
仮説４：「投資額」高得点群は、低得点群よりも化粧をする理由を選択する。

仮説１から仮説４については、多くの理由は高得点群、低得点群共に選ばれるか否かに違いはなかったが、「気持ちに余裕が持てるから」「生活に充実感がもてるから」という二つの理由については、高得点群の方が低得点群よりも多く選択されていた。このことから仮説１は支持された。

4.2　結果の解釈

全ての仮説が支持されたが、どの仮説においても高得点群と低得点群の化粧をすることの重要性の理由の違いは、「気持ちに余裕が持てるから」と「生活に充実感がもてるから」の二点であった。これは「こうあるべき」自己を意識することによって、自己評価を高く維持する女子学生が存在する可能性を示唆している。またそれと同時に、自分があるべき姿と現実の自分との間の不一致が自己に対する否定的評価が関係していることを述べていることから、化粧行動がこのあるべき姿と現在の自己との距離を狭め、自己への否定的評価を軽減させていると述べられており、それが本分析では「気持ちに余裕が持てるから」と「生活に充実感がもてるから」の二点が、よりこうあるべき姿へと自分を近づけようとしている高得点群にのみ見られた理由なのではないだろうか。

化粧が行為者に与える心理的影響、特に化粧を行うことにより自分に自信をもつことや精神状態の安定などについて、多くの研究者が指摘している（公文 1994、神山 1996、大坊 2001）。

またイメージするきれいな女性像であるイメージ得点と現実的にきれいな女性になろうとする現実目標得点、イメージと現実という異なる二つの側面を反映している各得点においても、上記と同様の「気持ちに余裕が持てるから」と「生活に充実感がもてるから」が選ばれるという結果がみられた。

これは前述の自己嫌悪感と自己意識との関係を研究した陳の結果、「こうありたい」という理想とする自己と自己嫌悪との間には関係性を見出せず、「こうあるべき」という義務感に基づく自己と自己嫌悪との間にのみ関係性があらわれたこととも関係していると考えられる。これは「こうありたい」という理想の自己イメージが「こうあるべき」という義務から生じる自己イメージから生じているためではないかと考えられる。つまり現実的に影響を与える自己イメージを元にして理想のイメージが形成されるため、調査結果においても類似する結果として表れるのではないだろうか。この知見は今後の化粧行動研究に、予め持つ自己イメージとの関連において、新たな視点を提供するだろう。

引用文献

高木修(監) 大坊郁夫(編著)　2001 シリーズ21 世紀の社会心理学9 化粧行動の社会心理学 北大路書房.

高木修(監) 大坊郁夫・神山進(編著)　1996　被服と化粧の社会心理学 人は何故装うのか 北大路書房.

公文裕子　1994　美意識についての提言（2） ―化粧の心理― 山野研究紀要, 3 , 9-25.

陳可玲　2004　大学生における理想自己・義務自己への意識傾向と優越感・有能感、自己嫌悪感との関連　臨床教育心理学研究, 3, 30(1), 22.